

# BankART AIR at Temporary OPEN STUDIO 2020

7.23.thu. - 26.sun. / 7.31.fri. - 8.2.sun. 11:30 - 19:30

6月から約2ヶ月間、様々なジャンルのアーティスト11名(+α)が、BankART Temporaryで、制作現場を共有しました。短期間の滞在でしたが、この7月23日からの数日、その現場の様子を皆さんに公開したいと思います。また連日アーティストトークを行いますので、是非ご参加ください。\*会期中も、BankART Temporary 1Fでは、「緑陰図書館～松本秋則+高橋啓祐展」を開催中です。

## BankART AIR at Temporary 2020 オープンスタジオ

日程 | 2020年7月23日[木・祝]～26日[日]、7月31日[金]～8月2日[日]

時間 | 11:30～19:30 入場 | 無料

会場 | BankART Temporary  
ヨコハマ創造都市センター

パーティ | 7月23日[木・祝] 19:00～ 参加費800円

アクセス | BankART Temporary (横浜市中区本町6-50-1)  
みなとみらい線「馬車道駅」1b出口

お問い合わせ | BankART1929

TEL: 045-663-2812 info@bankart1929.com www.bankart1929.com

主催: BankART1929 共催: 横浜市文化観光局

## アーティストトーク 18:00～19:00

7/23[木・祝] 高橋啓祐

7/24[金・祝] 足立真輝、阿部剛士、今井菜緒、橋村至星

7/25[土] LAUNCH PAD(LIU LING / FRED VEE)、  
窪田久美子、樋口昌美、細淵太麻紀

7/26[日] 堀江和真、三浦かおり、コンドウビコ

7/31[金] PARC-国際舞台芸術交流センター、  
川口真人(レイヨンヴェール)

8/1 [土] 松本秋則、UD-LAB 横浜

ADACHI Masaki, AVE Tsuyoshi, IMAI Nao, KUBOTA Kumiko, KONDO Bico, HASHIMURA Shisei, HIGUCHI Masami, HOSOBUCHI Tamaki, HORIE Kazuma,  
MIURA Kaori, LAUNCH PAD (LIU LING / FRED VEE)



# BankART AIR at Temporary OPEN STUDIO 2020

## 足立真輝

夢や記憶の中の空間を題材にした、いくつかのアートピースを制作する。オブセクショナルな形象を有限体に落とし込むための表現手法を探究している。また、アーティストの堀江和真氏、稲吉稔氏と協働で末吉町に計画しているオルタナティブスペースの、スタディ模型や計画案も同時に制作・展示する予定。

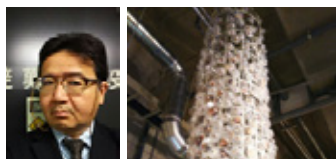
2013年1月 金沢区総合庁舎 庁舎内壁画デザイン・制作(金沢区区民賞)。2018年1月「fragments of secretgarden(ダイワハウスコンペ最優秀賞)」を「新建築住宅特集」にて発表。2019年6月 未来プロジェクト@象の鼻パーク、「チーム・ソラ:team SKY」のメンバーとして参加。2019年5月 BankART Stationにて、読売理工学院で指導担当したデザインスタジオの成果物を展示。2019年10月 BankART Station AIRにスタジオアーティストとして参加。



## 阿部剛士

横浜の歴史的建造物である旧第一銀行内でのレジデンスにつき。建築と芸術の両方向より、わかりやすい模倣を、今まで扱ったことのない素材で製作する。前回のレジデンスでは、コーヒーの容器を素材にして「円柱」を製作したが、今回は、可動壁にて同様の素材を用い「壁」を製作する。廃材を使用した小作品の製作を予定。

BankART 大岡川桜プロジェクトII 参加(2009)、BankART AIR Program 参加(2010・2011・2018・2019)、都筑アートプロジェクト 参加(2010~2013・2015)、新・港区ハンマーヘッドスタジオ入居(2012~2014)、個展「統制と日常 阿部剛士博覧展 Vol.1」(2018)。



## 今井菜緒

映像作品の制作・完成を予定。生活様式の変化に伴って発生した「誘」に着目し、掘り下げていきます。

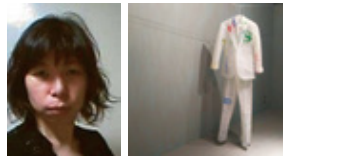
1998年生まれ、横浜出身。高校から女子美術大学附属へ入学し、現在は女子美術大学ヴィジュアルデザイン専攻でデザインを学んでいる。



## 窪田久美子

衣服をモチーフとした作品を制作予定。時間や場所・目的など状況によって規定される服装のルールや様式を把握し、服のもつ機能や社会的な意味を再考し彫刻として形を探る。

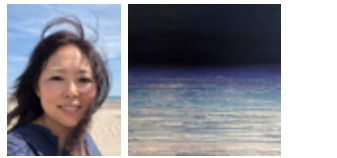
B-semi schooling system 修了。個展「plastic island / secondhand frontier」with an introduction by Moemi Takano(トキワビル303-aスタジオ/横浜/2019)、「comfortable」(numART/藤沢/2017)、「butterfly」(Launch Pad Gallery/横浜/2016)、「HOLD」(新宿眼科画廊/東京/2010)。グループ展「BankART Life III」(新・港村/横浜/2011)、「ANTINOMIE」(Gallery Objective Correlative/東京/2003)。その他、1996年「灰塚アースワークプロジェクト」(広島)にて滞在制作など。



## コンドウビコ

近年の創作活動の中心となっている Voyaging シリーズのテーマをさらに深く掘り下げ、深みのあるメッセージ性の高い作品として発信していくことに加え、新しい時代に向けて自身との対話を進めながら新たな技法や表現方法を探索中。テーマは「変容」。

横浜生まれ。ジュエリー作りをきっかけに独学で作品制作を始め、近年では独自の技法を用いた青い作品を中心に制作。2020年春より活動拠点をニューヨークから横浜へ移し新しい環境で再スタート。横浜やニューヨークで個展を開催。



## 橋村至星

今までの日常生活の常識が、疫病によって世界中でグロッツと逆回転してしまった様な2020年。それぞれの社会や個々の生き方が孕む問題点が多岐にわたっている様に思えます。また疫病の蔓延に恐怖を感じるのと裏腹に、この非日常にある種の開放感もひっそり感じています。この奇妙な空白期間に見て感じた人と風景を絵画作品として制作しました。

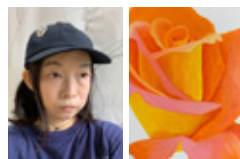
1990年代に9年間NY在住。The School of Visual Arts 卒業、New York University 大学院終了。帰国後は身近な日常風景に生きる人とそこに潜む違和感をテーマに絵画作品を制作。Gallery Side2、Gallery Lara Tokyo 他で個展。グループ展国内外多数。都筑アートプロジェクトに2015年から参加。BankART AIR5回参加。2012~14年ハンマーヘッドスタジオ参加。2013年から「ダンサーを迎えるクロッキー会」主催。SICF14、リキテックスアートプライズ2014入選。



## 樋口昌美

花の油絵を描く。この場所に相応しい、横浜市の花であるバラを描きました。

神奈川県横浜市出身・在住。2011年 BankART 1929 AIR、ACT OPEN STUDIO。2012年ハンマーヘッドスタジオ新・港区、岩崎美術館にて個展。2016年赤い家にてグループ展「Winter Garden」。2018年 Koshu33 ライフデザインラボにて展示。2019年 BankART AIR 2019 again。



## 細淵太麻紀

風景は誰のものか。視覚はどのようにしてつくりだされるのか。私たちが見ているものの不確かさを、できるだけ人為的・作画的なことを取り除き、何も写さないようにして何かを撮ることによって問い直す。建物、部屋、部屋の一部分などの開口部を塞いで既存の空間そのものを暗転してカメラオブスキュラにし、ピンホールから部屋の中に導かれる光を印画紙に焼き付けるシリーズの展開。

埼玉県川越市生まれ横浜在住。多摩美術大学にてグラフィックデザインを専攻、写真教室 CORPUS にて多くの写真家から学ぶ。1996年より都市をテーマに横断的に活動する建築・美術ユニット PH スタジオに参加し多くのプロジェクトに関わる。2004年、BankART 1929 の立ち上げにかかり、以降組織・施設の企画運営全般に携わる。2017年より「現像」共同主宰。



## 堀江和真

新作の「ポエム」という作品の制作を行います。煉瓦や、灰皿、舞台照明のカバーなどを白いペンキで厚塗りし、ここに黒いペンを使って、絵画を描くシリーズとなります。また、建築家の足立真輝さんと一緒に横浜にある「似て非ワークス末吉町(アーティスト稲吉稔さんの活動拠点の一つ)」の一階部分のリノベーションのプランを進めています。模型をつくり、空間の有効利用について話し合っています。横浜にアーティストが気軽に集い、アートや建築の可能性について語れる場所をと、考えています。

1981年生まれ、桜美林大学文学部を2004年に卒業。現在は相模原のシェアスタジオアトリエボイスに所属し制作の拠点を設け、アーティスト活動を展開しています。



戦略が求められている。「新・未来社会の設計」を目指し、都市デザイン政策の研究、横浜市内を中心に活動する研究団体のネットワーク化、そして活動拠点づくりを目指している。

## 川口真人[レイオンヴェール]

パフォーマンスアーツのプログラクシオンマネジメントを手がける。近年では、浦沢直樹原作「PLUTO」海外ツアー(2018)、ネザラドダンスシアター来日公演(2019)、横浜トリエンナーレ2020 イベント「Episodo 00」など。また、関内ホール「Dance in Life」の企画やダンスカンパニー OrganWorks の制作運営など、コンテンポラリーダンスの普及と発展に力を入れている。

## 三浦かおり

昨年までの作品の整理・調整などアップデートを中心に、ドローイング代わりの小作品の制作と秋の展示に向けて試行錯誤しています。主な素材として、時計のムーブメント、超音波、原稿用紙を扱っています。昨年に続き百科事典を一字ずつ刻んでもいます。いつか23冊分を合わせて一つの作品に仕上げるつもりです。

京都造形芸術大学卒業。日常にあるものから余韻、気配、痕跡をモチーフに制作しています。2012年頃から活動を始め、個展、グループ展の他、地方の芸術祭、海外でも展示をすることがあります。また、関内にシェアアトリエがあります。

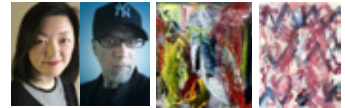


## LAUNCH PAD

(LIU LING / FRED VEE)

この春の様々な自粛により社会が一旦停止状態になった時、時間があるのに何もできない思いつかない意欲の枯渇状態に陥り、「社会が止まると自分も止まる」感覚がありました。そして6月になった途端に社会がまた動き出し、堰を切ったように日常に押し流されていく感覚を、この不思議な時期の記念に視覚化してみようと思いました。

LAUNCH PAD はリュウ・リンとフレッド・ヴィーの夫婦によるチームです。リュウ・リンはモノタイプという複製性のない版画技法を使用し、言葉になる前のプリミティブな感情を表現しています。フレッド・ヴィーは自由な発想がスパークする瞬間や社会批評を、写真・映像・音楽や絵画など、その時々でふさわしいと感じた手法で表現しています。作品制作以外に、横浜・石川町にて年齢やキャリアに関係なくやる気のあるアーティストを応援するギャラリーを運営しています。



## 2F / 長期入居チーム

### PARC - 国際舞台芸術交流センター

(TPAM-国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局)

メンバー:丸岡ひろみ、新井知行、雨宮士郎、眞鍋集介、柴田聡子

演劇、ダンス、音楽を中心に芸術全般の国際交流に携わるNPO法人。舞台芸術の最前線で活躍するプロフェッショナルが世界各地から集まるTPAMでは近年、ホー・ツェン、アビチャップン・ウィーラセタクン、マーク・テ、ホー・ルイアンなどアジアを代表する作家の作品をいち早く紹介してきた。

### UD-LAB 横浜 (Urban Design Lab-YOKOHAMA SENTAN)

メンバー:秋元康幸(都市デザイン)、土井一成(まちづくり研究者)、菅井 稔(まちづくり)、鈴木伸治(横浜市大教授)、野原 卓(横浜国大准教授)

故・北沢猛先生と環境空間のデザインを研究してきたメンバーを中心に、2020年6月に、都市づくりの専門家、大学など関係者により発足。人口減少・With コロナ時代のまちづくりで、横浜の都心部や郊外部は、都市デザイン・創造都市・まちづくりの新たな地域

を中心に活動する研究団体のネットワーク化、そして活動拠点づくりを目指している。